

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	SEIN LONE AUNG		
カナ又は漢字氏名	セイン ロン アウン		
2.出身国又は地域	ミャンマー		
3.学年	2年		
4.学校名	中央情報専門学校		
5.学種	専修学校専門課程（専門学校）	写真 タイトル AWSの資格に合格しました！	
6.所属研究科・学部等名	IT・Web学科		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月		
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私はもともとITが好きで、海外でITの仕事をして生活するのが夢でした。そのため、文化や言葉がミャンマーに近い日本を選びました。2022年から日本語の勉強を始め、2023年に新聞配達の学生として来日しました。学校に通いながら新聞配達のアルバイトをする中で、大変なこともありましたが、やりがいもあり、毎日新聞を読むことができて、日本語の勉強にも役立つ仕事だと感じています。			
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本でITの仕事をして生活したいという夢は、今も強く持ち続けています。現在は、中央情報専門学校でITについて学んでいます。すでにIT関係の会社から内定もいただいており、今も技術の勉強や資格の取得に取り組んでいます。その中で特に困難だったのは、英語と日本語の壁です。ITを日本語で学ぶためには、一定以上の日本語力が必要であり、私も日本語と英語の勉強に力を入れて目標に向かって取り組んできました。これからも、夢の実現に向けて学び続けていきます。			
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 今通っている中央情報専門学校では、ITに関する多くのしっかりした授業があります。学習環境も整っていて、Paizaなどで自習できる環境も用意されています。私も自習はとても大事だと思っているので、そのような環境はとても助かります。成績については、1年生のときに良い成績を取ることができました。2年生でも引き続き努力して、良い成績を目指します。これから奨学金をもらうことは、私の学生生活をより充実させるだけでなく、現在公開・運営している地元向けの記事投稿型ウェブアプリの維持管理費にも大いに役立つと考えています。			

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本の文化や言語に触れた経験としては、日本語学校で2年間日本語を学びました。アルバイトでは新聞配達をしながら、日本人との職場環境を経験し、日本語でしっかり話せるように努力しました。勉強を続けたことで、日本語で話すのが以前より楽になり、丁寧に話せるようになったと感じています。これからも、もっと自然に話せるように頑張っていきたいと思います。特に日本で感動したことは、職場での言葉遣いやマナーへの意識の高さです。私自身もそれを見習い、言葉遣いに気をつけながら、より良いコミュニケーションができるようになりたいと考えています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

現在、専門学校に通っていて、来年4月から就職することが決まっています。日本での留学は、自分の人生に大きな影響を与えてくれました。これからは、日本のIT分野で社会人として働き、日本社会に貢献していきたいと思っています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

専門学校1年生の終わりごろから就職活動を始めました。マイナビやインターネット、学校で行われた説明会などに積極的に参加し、就活を通して強く感じたのは、日本語レベルの重要性です。日本で就職活動をして感じた一番良い点は、新卒生を歓迎し、積極的に内定を出してくれることです。私の母国や中国などでは、新卒での就職はとても難しいですが、日本では新卒をしっかり受け入れてくれます。これが、日本がアジアのトップの国である理由の一つだと思います。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本に留学してきた一人ひとりが、大きな夢を持って来たことは間違いありません。その夢は簡単に叶うものではないと理解した上で、しっかり努力していくことが大切です。日本という国は、真面目に頑張る人のための国だと思います。だからこそ、自分が努力を続ければ、きっと夢を実現できると信じています。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	GUO TAIMING	
カナ又は漢字氏名	カク タイメイ	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年	2年	
4.学校名	日本工学院専門学校	
5.学種	専修学校専門課程（専門学校）	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	情報処理科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) （必須） 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 将来、IT関係の仕事をしたいと考えています。 その中で、日本の職場では短期的な成果だけでなく、長期的な成長や人材育成を大切にしている点に魅力を感じ、日本留学を決めました。自分自身も、一つ一つ積み上げながら成長していく働き方が合っていると感じました。 留学前には、日本語で専門分野を学ぶことを目標に、日本語の基礎力を重点的に勉強しました。文法や単語の学習に加えて、ニュースやIT関連の記事を読み、日本語で情報を理解する練習を行いました。 また、日本の授業では主体性が求められると聞いていたため、分からないことを自分で調べ、まとめる習慣をつけるよう意識しました。生活面でも、日本のルールやマナーについて事前に調べ、来日後にスムーズに生活できるよう準備しました。		
(2) （必須） 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 留学の目標は、大きく二つありました。 一つ目は、日本語で日本人と自然にコミュニケーションが取れるようになることです。 二つ目は、IT分野の基礎を身につけ、実際に使える技術力を習得することです。 来日当初は、日本語での会話に自信がなく、授業や日常生活でも苦労しました。しかし、日本で一から日本語を学び直し、一年間集中して勉強した結果、日本語能力試験N1に合格することができました。この結果には、自分自身でも大きな達成感を感じています。 また、授業だけでなく、クラスメートや先生との会話、さらにアルバイトを通じて日本人と接する中で、実際に使われる日本語を多く学ぶことができました。 ITについては、全くの未経験からのスタートでした。二年間の学習は決して簡単ではありませんでしたが、学校の先生方が非常に丁寧に指導してくださり、質問にも根気強く対応してくださいました。 授業に加え、課外での自主学習を続けることで、少しずつ理解が深まり、今回の卒業制作では、学んだ内容を活かして成果を出すことができたと感じています。		

(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。

学校の授業では、ITの基礎から応用まで、段階的に学ぶ構成になっていました。講義だけでなく、演習や制作課題が多く、実際に手を動かしながら理解を深める授業が中心でした。

学習環境としては、質問しやすい雰囲気があり、理解できるまで説明を受けることができました。

成績については、日々の課題や出席、授業への取り組みが評価され、安定した成績を維持することができました。

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本で生活する中で、最も強く感じたのは、社会全体がルールを大切にしているという点です。

例えば、電車やバスが時刻表通りに運行されることは、日本では当たり前ですが、非常に高い正確さだと感じました。エレベーターでは立つ位置が自然に分かれ、道路ではクラクションの音をほとんど聞きません。

このように、一人一人がルールを守ることで、社会全体がまるで精密な機械のようにスムーズに動いていると感じました。

また、職場や学校でも、時間を守ること、約束を守ること、周囲に配慮することが強く求められ、日本語と同時にこうした考え方を学ぶことができました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本留学は、専門知識だけでなく、考え方や仕事に対する姿勢にも大きな影響を与えました。

結果を急ぐのではなく、基礎を大切に、継続的に成長していくという考え方は、今後どのような環境で働く場合でも重要だと感じています。

また、多様な背景を持つ人と協力しながら学んだ経験は、将来チームで仕事をする上で大きな財産になると考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

留学生として、日本での就職活動では多くの企業に応募しましたが、年齢や日本語力の面で、思うように進まないことも多くありました。

しかし、その都度、自分の課題を振り返り、履歴書や面接内容を改善し続けました。

その結果、最終的には、規模のある企業に内定をいただくことができました。将来は日本人の社員と一緒に働く環境であり、日本での留学経験を活かせると考えています。

日本では、一定の基礎力と意欲があれば、努力が評価されやすい環境があると感じました。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学を考えている方には、まず日本語をしっかり学ぶことを強く勧めたいです。

一つの国で生活し、学び、働くためには、その国の言語を理解することが何よりも大切だと実感しました。

日本留学は簡単ではありませんが、目的を持って努力すれば、学びも成長も確実に得られる経験だと思います。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	HEIN HTET ZAW	非公開
カナ又は漢字氏名	ヘイン テッ ゾー	
2.出身国又は地域	ミャンマー	
3.学年	2年	
4.学校名	専門学校 静岡工科自動車大学校	
5.学種	専修学校専門課程（専門学校）	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	国際オートメカニク科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
（１）（必須）日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は子供のころから日本の技術や文化に興味がありました。特に、自動車産業が発達している日本で整備や機械の知識を学びたいと思い、留学を決意しました。留学前に母国の日本語学校で日本語を勉強し、日常会話ができるように準備しました。また、日本の生活習慣や文化についても本やインターネットで調べて、スムーズに生活できるように努力しました。		
（２）（必須）日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の留学の目標は、自動車整備の専門知識と技術を身につけることです。将来は、日本で学んだ技術を生かして母国の自動車産業の発展に貢献したいと考えています。現在は、授業や実習を通して多くの知識を得ることができ、少しずつ自信がついてきました。先生方や友達の支えもあり、目標の半分ほどは達成できたと思います。今後もさらに技術を磨き、資格取得を目指したいです。		
（３）（必須）学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 私の学校では、自動車整備に関する理論と実習を中心に学んでいます。授業ではエンジン構造、電気回路、ブレーキ、サスペンションなどについて詳しく教えてもらい、実習では実際の車を使って点検や修理を行います。教室や実習場は整理されており、学習環境はとても良いです。先生方も熱心で、わからないところを丁寧に教えてくださいます。成績もクラスで上位であり、特に実習科目はがんばっていると思います。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本に来てから日本語でのコミュニケーションに苦労しましたが、毎日先生やクラスメイトと話すことで少しずつ慣れてきました。また、日本の職場や学校では「報連相」や「時間を守ること」がとても大事にされていることを知り、作業をする時の責任感や丁寧さが身につきました。実習を通して、正確さ、安全確認の重要性を深く学び、自分でも成長を感じています。日本人の学生や地域の人たちとの交流を通して、協力しながら作業する大切さも学ぶことができています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本で自動車整備を学んだ経験は、私の将来のキャリアに大きなプラスになると思います。日本の自動車整備技術は世界的にもレベルが高く、ここで身につけた知識や技術は、将来自分の国で働く際に大きな武器になります。また、日本の点検方法や安全に対する考え方、整備作業の丁寧さを学んだことで、国際基準に沿った整備士として成長できると感じています。将来、母国の整備工場やディーラーで働き、日本で学んだ技術を広め、質の高いサービスを提供できる整備士になりたいです。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

現在、私は日本での就職活動に向けて準備を進めています。日本では、履歴書の書き方や面接での受け答えそして身だしなみまで細かく求められることを知り、母国と比べてとても丁寧で厳しいと感じました。また、自動車整備の職場では安全意識が非常に高く、作業前の確認や工具管理等、細かいルールがしっかりしています。これは母国の整備文化とは大きく違う点であり、とても勉強になっています。学校でも先生が就職指導や面接練習をしてくださり、サポートが充実しているため助かっています。今後は日本語能力をさらに伸ばし、日本の整備工場で働けるようにがんばりたいです。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は大変なこともあります、その分大きく成長できる機会だと思います。日本では技術だけでなく日本の文化に触れ、新しい価値観を学ぶことで自分の視野が広がります。また、日本語の勉強は簡単ではありませんが、毎日努力すれば、必ず理解できるようになります。もし本気で整備士になりたいなら、日本での留学は大きなチャンスです。ぜひ、勇気を持って挑戦してたくさんの経験を積んでほしいと思います。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1. アルファベット氏名	ZAY BAY DAE	
カナ又は漢字氏名	ゼーベーデー	
2. 出身国又は地域	ミャンマー	
3. 学年	2 年	
4. 学校名	トヨタ神戸自動車大学校	
5. 学種	専修学校専門課程（専門学校）	写真 タイトル
6. 所属研究科・学部等名	自動車整備科	
7. 学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ~ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) （必須） 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私が日本留学を目指したきっかけは、もともとアニメを通して日本文化に興味を持ったことです。その後、自分で日本について調べるうちに、教育制度の質の高さや学習環境の良さを知り、「実際に日本で学んでみたい」と強く思うようになりました。 留学の準備としてまず日本語学習に力を入れました。地元には日本語教室がなかったため、最初はオンラインで学習を進め、N4レベルまで知識を積み上げました。その後、日本語能力試験を受験するために都会へ出て、N3レベルからは対面授業の日本語学校に通い、より実践的な日本語を身につけました。 N3の学習を終えて来日し、日本語学校でさらに学習を深めたことで、日本語力だけでなく、日本の生活や文化への理解も広がりしました。これらの経験が、私が日本で学び続けたいという思いをより強くしてくれました。		
(2) （必須） 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の目標は、いつか自国で自動車整備の会社を立ち上げることです。現在はトヨタ神戸自動車大学校に通い、自動車に関する専門知識や技術を深めています。目標を達成するにはまだ時間がかかるとは思いますが、そのためにまず日本で数年間働き、実務経験を積んでから帰国し、会社設立につなげたいと考えています。		
(3) （必須） 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 私の学校では、自動車専門校ならではの、車に関する知識や構造を細部まで学ぶことができます。特に、外部診断機（GTS）を使って車両の状態を診断する授業はとても興味深く、実践的な力が身につくと感じています。実習車両や専用工具も十分にそろっているため、授業の環境は非常に整っており、実習がしやすい点も学校の大きな魅力です。 また、先生方は優しく、分からないことや困ったことがあった際には丁寧にサポートしてくださるので、安心して学ぶことができます。私は成績に対して強い意識を持っており、普段から授業に集中し、居眠りをせずに積極的に取り組むよう努めています。その結果、各科目の試験でも良い成績を取ることができ、クラスでも上位の成績を維持しています。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本に初めて来たとき、最も驚いたのは、どのお店に行っても必ず「いらっしゃいませ」と声をかけられることでした。自国にはそのような習慣がなかったため、日本人の丁寧さや接客態度の良さを強く感じました。また、町中にほとんどゴミが落ちておらず、とても清潔で、交通の便利さにも驚きました。

一方で、生活面では苦労することも多くありました。難しい漢字を読むことや、日本人同士の速い会話を聞き取ることは最初の頃は特に大変でした。しかし、日々の生活の中で日本語に触れ続けることで、少しずつ慣れていき、今では以前よりもスムーズにコミュニケーションが取れるようになりました。

また、日本人が時間をきちんと守る姿勢に触れ、自分自身も時間管理への意識が高まりました。日本での生活は、語学面だけでなく、生活習慣や考え方の面でも大きな成長につながったと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

私は将来自国で自動車整備の会社を設立したいという目標があり、そのためにトヨタ神戸自動車大学校への進学を決めました。特にトヨタ車が好きで、車についてより深く学び、専門的な知識と技術を身につけたいと考えてきました。

日本で学んだ内容や学校で身につけた知識・技術は、今後のキャリアに直接つながる大切な基盤になると感じています。卒業後は日本で就職し、現場での実務経験を積むことで、自国で会社を立ち上げるための力をより確かなものにしていきたいです。

日本への留学は、自分のキャリアの「最初の一步」であり、将来の夢を実現するための大きな影響を与えてくれる貴重な経験だと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の経験について教えてください。また、就職活動や進学の経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

日本語学校から専門学校へ進学する際、私にとって最も大変だったのは受験に向けた準備でした。特に、受験勉強を進めることや、志望校のオープンキャンパスに参加しなければ受験資格が得られない点が大きな負担でした。また、多くの学校の中から自分に合った進学先を選ぶまでにも時間がかかり、情報を集めたり比較したりするのも苦労しました。

自国では高校の成績によって大学や専門学校に進学できるため、いわゆる「受験勉強」や「入学試験」の文化がありません。そのため、日本のように筆記試験の対策をしたり、面接練習を繰り返したりする経験はほとんどなく、最初は非常に戸惑いました。

しかし、受験勉強や面接準備を通して、自分と向き合いながら努力する大切さを学ぶことができました。この経験は、日本の進学制度ならではのものであり、自国との大きな違いとして感じた点でもあります。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学を考えている方には、まず日本語をある程度勉強してから来ることをおすすめします。基礎的な日本語力があれば、日本での生活に早く慣れることができ、日本の文化や社会にもスムーズに溶け込めると思っています。

日本は技術が発展しており、安全で暮らしやすい国です。努力すれば多くのことを学べる環境が整っていますので、ぜひ日本への留学に挑戦してみてください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	MAJHI RANJITKUMAR		
カナ又は漢字氏名	マジ ランジット クマル		
2.出身国又は地域	ネパール		
3.学年	2		
4.学校名	岡山科学技術専門学校		
5.学種	専修学校専門課程（専門学校）	写真 タイトル	学園祭の展示車と
6.所属研究科・学部等名	国際自動車工学科		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ~ 終了年月 20 26 年 3 月		
（１）（必須）日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は、日本に来る前、母国で自動車整備の仕事をしながら、日本語の勉強をしていました。日本は自動車産業において世界をリードする国の一つなので、日本で学ぶことにしました。トヨタ、ホンダ、日産、マツダなど、多くの有名な自動車メーカーは日本の企業であり、高品質と安全性、そして先進技術で知られています。自分のスキルアップになると思い、日本へ留学しました。			
（２）（必須）日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学の目標は、日本の自動車会社へ就職して、文化を実体験を通して深く理解することです。特に授業や日常生活の中で自然な日本語を使いこなせるようになること、そして日本の価値観や考え方を学び、将来の学業や進路に活かすことを目標にしています。 現時点での達成度としては、日本語については、授業だけではなく、友人や地域の方との会話を通して以前よりも聞く力、話す力が大きく向上したと感じています。			
（３）（必須）学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 学校では、自動車整備の勉強をしています。学科授業では主に部品の構造や作動の勉強をしています。実習授業では、実際の自動車からサスペンションやブレーキの脱着作業をしています。学生が多いですが、積極的に作業や勉強を頑張っているのが、成績は良い方だと思います。			

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

私が今まで日本の文化や日本語に触れる中での最も大きな挑戦は、言葉だけでなく相手への配慮や空気を読むことの重要性を理解することでした。日本語学校の時は、日本の高校生との交流を通して、間違いを恐れずに伝えようとする姿勢が大切だと学びました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私の将来の進路やキャリア形成に大きな影響を与えていると考えています。日本の教育環境や社会では、責任感や協調性、そして高い専門性が重要視されているため、その中で学ぶことで専門知識だけでなく、仕事に対する姿勢や価値観を身につけることができます。

この環境で学ぶことで、これらの価値観が専門的な環境で学術的にどのように適用されるかについて理解を深めることができます。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本の文化や言語を学びながら自分の夢に向かって精一杯努力してください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	WANG HAOLIN		
カナ又は漢字氏名	王 浩霖		
2.出身国又は地域	中国		
3.学年	2		
4.学校名	HAL東京		
5.学種	専修学校専門課程（専門学校）	写真 タイトル	先輩留学生として後輩へ 学生生活に関する講演中
6.所属研究科・学部等名	ゲーム学科		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ~ 終了年月 20 26 年 3 月		
(1) （必須） 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 子供の頃から、日本のアニメやゲームに親しんでいましたが、その時は日本作品だと意識せず楽しんでいました。その後、大学時代に改めて日本の作品に触れる機会が増えたことで、昔の記憶もよみがえり、日本文化に対する関心が一層強まりました。それをきっかけに独学で日本語の勉強を始め、日本へ留学したいという思いが芽生えました。 大学4年生の時には、日本語能力試験N1に合格し、東京の日本語学校とも連絡を取り、卒業後に留学する計画を立てました。しかし、新型コロナウイルスの影響により入国が一時的にできず、計画は延期せざるを得ませんでした。それでも留学への意志は揺らぐことなく、日本語の学習やオンライン授業を続けながら入国できる日を待ち望んでいました。結果として、入国前に日本語力をさらに高めることができ、むしろ良い準備期間になったと思っています。			
(2) （必須） 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学の目標は、日本の文化をより深く感じることと、将来ゲームクリエイターとして働くために日本語能力や専門知識を身につけることです。 昔から日本のアニメやゲームを通して日本文化に強い興味を持ち、実際に日本で生活することで、その文化を直接体験し、自分の感性や価値観を広げたいと考えていました。留学生活を通して、日常の生活習慣から学校行事、友人との交流まで、多くの場面で日本文化に触れ、それを体験することができたと思います。 専門知識に関しては、ゲームにおけるビジュアルのクオリティを向上させるため、自主的にポストプロセスエフェクトのような技術研究にも取り組みました。学んだことを課題や試験を通して修得した結果、3つの学内コンテストで受賞することができました。そして現在は、就職活動を終え、来年の4月からは、ゲーム業界でプログラマーとして働く予定です。留学当初に描いた大きな目標が形となり、達成感を強く感じています。留学で得た知識や経験はあくまでもスタートラインに過ぎないため、これからは実際の仕事を通じてさらに成長していきたいと考えています。			

(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。

私が在籍している学校では、プログラミング、3Dグラフィックス、ゲーム企画など幅広い分野を体系的に学ぶことができます。授業は実践的な課題が多く、自ら手を動かして学ぶ機会が多いため、知識をしっかりと定着させることができました。先生方は現場経験が豊富で、専門的な質問に対して丁寧に指導いただけるだけでなく、就職活動に役立つ具体的なアドバイスもいただきました。

また、同じ目標を持つクラスメイトが多く、互いに切磋琢磨できる環境が整っています。個人制作だけではなくチーム制作も重視している授業が多いため、コミュニケーションや役割分担の重要性を学ぶことができました。こうした経験は、実際の業界に近い環境を体験できる貴重な時間だったと思います。さらに、学内コンテストや作品展覧会など、業界にも広く知られているイベントがあるため、自分やチームの成果を発表し、評価していただける機会も豊富にあります。

このような環境の中で努力を重ねた結果、先生方から評価をいただき、良い成績を修めることができました。学内コンテストでの受賞や資格取得など、成果として形になった経験は、自分の自信につながるとともに、就職活動や将来のキャリアに大きく役立ったと感じています。

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域のひととの交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

留学で直面した挑戦といえば、まずは言葉だと思います。母国でどれだけ努力して学んでも、実際に現地で使うと心細くなることは少なくありません。さらに、教科書に載っていない言葉や表現に出会うことも多くありました。ですが、本当に難しいのは言語そのものよりも、その背後にある文化の違いを理解し、受け入れることだと感じています。

日本に到着した当初は、車の走行方向や日常で使われているアプリなど、まずは表面的な違いに気づきました。しかし生活を重ねるうちに、会話のニュアンスや人との距離感など、表面には現れにくい文化の違いにも気が付くようになりました。例えば、同じ話題でも日本人の友人と中国人の友人とでは返ってくる反応が異なることがあり、その中で自分も話し方や伝え方に気を配るようになりました。

こうした日常に潜む小さな違いは、実際に体験しなければなかなか理解することができません。だからこそ、異なる文化に触れることを通じて、自分の視野が広がり、柔軟に物事を受け止められるようになったと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私のキャリア形成に大きな影響を与えました。もともと日本の文化やゲームに強い関心を持ち、ゲームクリエイターとして活躍したいという目標がありましたが、留学を通じてその思いはさらに強く、また具体的な形に育っていきました。

日本語学校や専門学校での学びを通して、言語能力や専門技術だけでなく、日本の社会や文化への理解も深めることができ、日本企業で働く上で必要とされる「コミュニケーション力」や「チームでの協働力」を実践的に身につけることができたと感じています。

さらに、実際に日本で生活することで、日本独自の価値観や仕事への姿勢、ものづくりに対する真摯な態度を肌で感じるできています。これらの経験は、自分の創作活動に対する視野を広げ、より多様なアイデアを形にする原動力となっています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の経験について教えてください。また、就職活動や進学の経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

日本での就職活動は、とても早い段階から始まると感じました。インターンシップや準備作業の時点で、すでに卒業の一年以上前から動き出す必要があります。特に留学生にとっては、就職活動の流れや情報を早く把握することが何より重要であり、その点で学校の就職指導には本当に助けられました。

インターンシップへのエントリー、就職作品の制作、本選考のエントリーや面接、どの段階においても、それぞれに求められる準備や注意点がありました。まさに「就職活動は情報戦」であると強く感じています。私が無事に就職活動を終えることができたのは、学校の先生方や先輩方からいただいた支援のおかげです。業界経験を持つ先生方からの実践的なアドバイス、そして就職活動を終えたばかりの先輩方からの具体的な体験談が大変役立ちました。そこに自分自身の努力を重ねられたことが成果につながったと思います。

また、留学生にとって避けられない大きな課題は「面接」だと思います。日本で働くためには日本語力が必須であり、単にビジネス日本語を使えるだけではなく、話す際のニュアンスや言葉遣い、人柄そのものも評価されます。そのため、うまく対応できるようになるためには、繰り返し練習を重ねることが不可欠だと感じました。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、私の人生を大きく変えるきっかけとなりました。新しい環境で学ぶことで、これまで気が付かなかった自分の可能性を発見できたと思います。人生には様々な選択肢がありますが、「しないより、挑戦した方が必ず得るものがある」と私は感じています。

また、日本での留学生生活を充実させるために大切なのは、日本文化を積極的に体験することです。せっかく日本に来たのですから、イベントや祭りに参加したり、日本人のクラスメイトと交流したりして、多くの友達を作りましょう。日本にいながら母国と同じ環境にとどまるのは、非常にもったいないことだと思います。

留学とは、未知の領域に踏み出すことです。不安を感じることもあるかもしれませんが、自分の目標を思い出してください。その不安は、きっと「ワクワクする期待」に変わっていくはずです。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	FARID PRATAMA	
カナ又は漢字氏名	ファリド プラタマ	
2.出身国又は地域	INDONEISA	
3.学年	2年	
4.学校名	早稲田文理専門学校	写真 タイトル 六本木のクリスマス
5.学種	専修学校専門課程（専門学校）	
6.所属研究科・学部等名	国際観光・通訳ガイド学科	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私が日本に留学したいと思ったきっかけは、日本のきちんとしたマナーや規律にとっても憧れたからです。例えば、電車に乗る前に列にきちんと並ぶことや、横断歩道を渡っているとき車に向かってにお辞儀をすること、感謝や謝罪の気持ちをしっかり言えることなど、日本では日常生活の中で細かい気配りや礼儀が自然に行われています。私はこうした文化に触れ、自分自身も学びたいと思いました。また、日本で勉強することで、語学力だけでなく、日本人の考え方や価値観も理解できると考えています。これらの経験は、将来の自分の成長やキャリアに必ず役立つと思い、留学を決めました。そして、私も日本人のような性格や考え方を身につけたいと思ったので、日本へ行くことにしました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の日本での留学の目標は、日本語能力をさらに高め、日本の文化や価値観を深く理解することです。現時点では、日本語能力試験N2を取得し、現在はN1取得に向けて努力しています。また、学科に関連する資格もたくさん取得しました。例えば『国内旅程管理者研修』『おもてなし検定3級』『旅館ホテル・観光ビジネス検定3級』などです。さらに『観光英語検定3級』や『文書デザイン検定2級』『情報処理技能検定（表計算）2級』など、英語やパソコンの検定にも合格しました。 これらの経験を通して、日本語力だけでなく、観光やビジネスに必要な知識や技能も身につけることができました。今後も努力して、専門的な応用力を高めていきたいと考えています。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 学校では、主に観光・ホスピタリティに関する授業を受けています。1年生では旅行業務やガイドの基礎のほか、Microsoft officeの使い方、就職活動の方法などを学びました。2年生では、卒業制作のための取材として茨城県筑西市を訪問しました。グループ活動では栗を生産している農家でいろいろな話を聞き、焼き栗を作る体験もできました。このように直接インタビューができるのは日本語の勉強にもなり、とても貴重な経験です。また、新潟県湯沢町の観光ホテルに宿泊する研修ツアーもありました。部屋のセッティングについてホテルの方たちに教えてもらい、湯沢町の観光に関するプレゼンテーションでも喜んでもらえたのはうれしかったです。これらの経験を通して、専門知識だけでなく、実践的なスキルやチームで協力する力も身につけることができました。学校の環境は、少人数制で先生との距離が近く、質問や相談がしやすい雰囲気です。先生方や友だちのおかげで、これまで全体的に良い成績を維持しています。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

学校の紹介で花火大会のボランティア活動に参加した経験があります。そのイベントでは、さまざまな国から来た人々と一緒に活動する機会があり、異なる文化や考え方を持つ人々と協力しながら、すべて日本語でコミュニケーションをとらなければなりませんでした。その経験を通して、自分の日本語能力を実践的に使うことができるだけでなく、相手に分かりやすく伝える工夫や、協力することの大切さも学びました。また、そのほかにも、日本の伝統文化にも触れる機会があり、茶道の作法や日本の伝統的な踊りを体験することもできました。こうした経験から、日本の文化や礼儀作法を肌で感じる事ができ、他者への配慮や協調性も高めることができましたと思います。さらに、異文化の人々と接することで、自分の考え方や価値観を柔軟にすることの重要性を学び、日本での留学生活においても積極的に交流し、成長していきたいという意欲につながりました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私の将来の進路に大きな影響を与えます。留学を通して、日本語能力や文化理解だけでなく、異文化の人々と協力しながら学ぶ力やコミュニケーション能力を身につけることができました。これらの経験は、将来、国際的な環境で働く際や、多様な人々と関わる職場で非常に役立つと考えています。また、日本での学びを活かして、母国と日本の架け橋として貢献できる人材になりたいと思っています。このように、留学経験は私のキャリアの選択肢を広げ、将来の目標達成に向けた基盤を作る貴重な機会となりました。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

私はMGKK協同組合から内定をいただき、生活支援に関する業務や書類の手続き、相談対応、日本語とインドネシア語の通訳・翻訳を担当することになります。私自身、留学の最初の1年間はとても大変で、誰も助けられず辛い思いをしました。しかし、この経験を通して、困っている人たちを支えたいという気持ちが強くなり、だからこそ、私は自分の経験を活かして、初めての日本での相談や手続きで困っている方々のサポートを行い、役に立ちたいと考えています。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本へ留学を考えている皆さんへ。留学生活は最初は大変で、言葉や生活習慣の違いで戸惑うこともあるかもしれませんが、その経験こそが自分を成長させる大きなチャンスです。困ったときは周りに相談したり、積極的に交流したりすることで、少しずつ自信がつきます。日本の文化や言語に触れることで、視野も広がり、多くの知識や経験を得ることができます。ぜひ勇気を持って挑戦してください。そして、困難を乗り越えた先に、自分だけの貴重な経験と成長が待っています。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	RABINA		
カナ又は漢字氏名	ラビナ		
2.出身国又は地域	ネパール		
3.学年	2年生		
4.学校名	非公開		
5.学種	専修学校専門課程（専門学校）	写真 タイトル	「歴史と光が織りなす、日本の美しさ。」
6.所属研究科・学部等名	非公開		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月		
（１）（必須）日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私が日本へ留学するきっかけは、高校時代の友人の影響です。その友人は私より3年前に日本へ留学しており、電話で話すたびに「日本ではルールや時間を守ることがとても大切だ」と教えてくれました。私はその話を聞くうちに、自分自身も日本で生活し、その文化を直接経験してみたいという強い思いを持つようになりました。 それから、母国にある日本語学校に通い、日本語の勉強を始めました。当時はコロナ禍で、直接学校へ通うのが難しかったため、オンライン授業を受けたり、自分でインターネットを使って言葉を調べたりしました。また、日本のアニメを見ることで、自然な表現や会話を学ぶよう努めました。その結果、来日前にN5程度の日本語を話せるようになりました。			
（２）（必須）日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の日本での留学の目標は、主に日本語のスキルをさらに向上させること、国際的な視野を広げること、そして異文化交流を深めることでした。まず、日本語をしっかりと勉強して日常会話ができるようになることを目指し、努力を続けてきました。その結果、日本語能力試験N2に合格することができ、自信につながりました。 また、日本の文化を学び、さまざまな国籍の友人と交流する中で、異文化理解を深めることができました。さらに、専門学校では国際コミュニケーションを学び、将来日本のサービス業界で働くことを目標としてきました。その成果として、現在は良いホテルから内定をいただくことができ、来年卒業後には接客の仕事をする予定です。 このように、留学当初に掲げた目標の多くが現時点で達成できており、日本での学びが大きな力となっていると実感しています。			

(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。

私は現在、専門学校の授業で、日本語や英語の語学力を伸ばすだけでなく、接客マナー、異文化理解、そしてホテルやサービス業界で必要となるコミュニケーションスキルを重点的に学んでいます。特にプレゼンテーションやロールプレイなど、実践的な授業が多く、自分の表現力や対応力を高める良い機会になっています。

学習環境はとても良く、先生方は丁寧に指導してくださり、分からないところも理解できるまでサポートしてください。また、クラスにはさまざまな国籍の学生が在籍しており、授業やグループ活動を通して多様な文化に触れ、互いに刺激を受けながら学ぶことができます。

成績については、出席や課題をしっかりと守るよう努力し、全体的に良い評価をいただいています。その結果、奨学金の受給対象にも選んでいただくことができ、自分の努力が実を結んでいると感じています。

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域のひととの交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

私は日本での生活を通じて、さまざまな文化や言語に触れる機会を持ちました。たとえば、神社参拝やお祭り、花見などに参加することで、日本の伝統的な文化を体験しました。特に「礼儀」や「時間を守ること」の大切さを、日常生活の中で強く実感しています。

また、日本語の学習だけでなく、実際に日本人や外国人と交流する機会も数多くありました。これまでに15回以上のボランティア活動に参加し、その中でも2025年大阪万博関連の活動では、大阪のお菓子を紹介するお店で、日本人スタッフと協力しながら外国人のお客様に対応しました。その際、日本語だけでなく英語も使いながらコミュニケーションを取ることで、実践的な語学力と接客スキルを身につけることができました。

さらに、学校のイベントや地域の交流活動を通じて、日本人学生や地域の方々と意見を交換し、一緒に活動する中で、協力する姿勢や相手の文化を尊重する心を学びました。

これらの経験を通して、私は異文化理解を深めるとともに、自分から積極的に人と関わる姿勢を身につけることができました。日本での交流体験は、私にとって大きな自信となり、今後の人生に必ず役立つと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私の将来の進路やキャリアに大きな影響を与えていると考えています。まず、日本語力の向上により、日本で働く上で必要なコミュニケーション能力を身につけ、自信を持って接客や業務に対応できるようになりました。

また、専門学校で学んだ国際コミュニケーションや接客マナーの知識は、将来ホテルやサービス業界で働く際に直接役立つと感じています。さらに、15回以上のボランティア活動や学校・地域での交流体験を通じて、多様な人々と協力する力や柔軟性も身につきました。

これらの経験により、私は卒業後に日本のホテルで接客業務を行う際、言語能力や専門知識、異文化理解のすべてを活かして、より良いサービスを提供できると考えています。加えて、今後は日本語能力試験N1合格を目指してさらに日本語力を高め、将来のキャリアに役立てたいと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

私は高校卒業後、日本に来ました。その後、日本語学校を卒業し、現在の専門学校に進学しました。専門学校では、将来の進路として日本のホテルでの就職を目指し、面接に挑戦した結果、希望するホテルから内定をいただくことができました。

就職活動の過程では、履歴書の書き方を先生の指示に従って丁寧にチェックしてもらうなど、日本ならではの細かい準備が求められることを実感しました。母国との大きな違いとしては、日本では面接や書類提出の際に時間厳守や礼儀作法が非常に重視されること、そして自己PRや志望動機を具体的に伝える必要がある点です。また、服装や話し方などのマナーにも細かい配慮が必要であることを学びました。

さらに、日本の就職活動には「新卒一括採用」という仕組みがあり、多くの会社が毎年4月から新入社員を受け入れることが決まっています。これは母国ネパールとの大きな違いであり、ネパールでは12月に学校を卒業したら、時期に関係なくすぐに就職することが可能です。この違いを通して、日本の社会では計画性や組織全体のスケジュールを重視する文化があることを理解しました。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、新しい言語を学び、異なる文化を体験できるとても貴重な機会です。最初は、言葉の壁や生活習慣の違いに戸惑うこともあるかもしれませんが、しかし、その一つ一つの経験が必ず自分の成長につながります。

特に日本では、時間を守ることや礼儀正しい態度がとても大切にされます。学校生活でもアルバイトでも、人との関わりを通して責任感や協調性を学ぶことができるでしょう。母国との違いを理解し、柔軟に対応する姿勢があれば、日本での生活は必ず充実したものになると思います。

また、留学は勉強だけでなく、自分自身を知る良いチャンスでもあります。困難に直面したときには周りの先生や友達に相談しながら、一步一步進んでいくことが大切です。努力を続ければ、きっと自分の夢を実現できると思います。

日本への留学を考えている皆さんには、ぜひ勇気を持って挑戦してほしいです。きっと新しい世界が広がり、将来につながる大きな財産になるでしょう。